SUCCESS STORY

TrendAI Vision One™ - Cyber Risk Exposure Managementで実現 端末ごとのリスクの把握、対応で業務効率を改善

株式会社robot home https://corp.robothome.jp
東京都、日本 | 連結：238名（2024年12月末時点）
ソリューション:
TrendAI Vision One™ Cyber Risk Exposure Management、Endpoint Security
※Trend Vision One - Cyber Risk Exposure Management、Endpoint Securityは、TrendAI Vision One™ Cyber Risk Exposure Management、Endpoint Securityに名称変更されました

導入の背景

株式会社robot homeは「テクノロジーで、住宅を変え、世界を変えていく」というミッションと「世界を代表するテクノロジー企業となり、不動産投資を通じて持続可能な社会を実現する」というビジョンのもと、不動産を通じたあらゆる社会課題の解決を目指している。その一環としてDX戦略の推進によって新たなビジネスや顧客体験を創造し続けることで、パートナーをはじめとするステークホルダーと共創しながら課題解決に取り組んでいる。近年、サイバー攻撃の高度化・巧妙化が進む中、robot homeでは強固なセキュリティ体制の構築に注力し、子会社も含めた統一的なセキュリティ基準の策定や、研修・啓発活動を通じた対策強化を進めてきた。そんな中で、自社環境のリスクの可視化によって、より網羅的かつプロアクティブなセキュリティ対策を講じる必要性を感じていた。

お客さまの課題

既に他社の資産管理ツールを用いて端末管理を行っていたものの、可視化できる範囲に制限があり、特にアプリケーションレベルでの脆弱性管理が不十分となっていた。robot homeではアプリケーションのインストール時に社内で申請する運用をとっていたが、その後のアップデート状況や、継続的な利用状況の管理までは十分に行えていなかったという。

また、脆弱性の対策、管理についてはJPCERTの情報などを参考にパッチ適用が必要な情報を収集し、該当端末利用者に適用を依頼する運用を行っていたが、対象となるアプリケーションが既に利用されていない、パッチが適用状況を把握する仕組みがないなど、対応の徹底、継続が業務負担となっていた。

この点を踏まえ、EDRの導入による攻撃対策は実施していたが、リスクの継続的な可視化、対応を含めた、より包括的な管理を実現したいと考えていた。

TrendAI Vision One™ - Cyber Risk Exposure Management（以下、CREM）は、まさにrobot homeが必要としていたリスクの可視化を実現し、さらにそのリスクを具体的な数字でスコアリングできる点に期待し、経営層がセキュリティ投資に積極的であったこともあり、CREMの導入を決定した。

導入効果:

- 自社環境の可視化を実現し、さらにスコアリングでリスク度を把握できるようになったことで、優先度に基づいた対応が可能となり運用の効率化に貢献した。
- 端末単位でのアプリケーションレベルの可視化により、可視化が出来ていなかったがゆえに発生していた無駄なコミュニケーションや作業の削減に成功した。

「この数値でリスク値が表示されるということが想像以上にわかりやすく、また、そのリスク値を参考に、次のアクションが明確になるのがとても使いやすいです」

高杉 健太郎 氏
株式会社robot home DXマネジメント部

CREMの利用方法

robot homeでは、週次の定期確認と随時のアラート対応にCREMを活用している。特に自社環境全体のリスクスコアを、業界標準スコアと比較する機能を活用し、平均を下回るよう対処を進めており、効果的な運用を通じて、実際に導入当初のリスクスコアをおよそ半分程度まで改善している。

中でも、デバイス別のスコアリングページを活用し、端末ごとの状況を詳細に把握しながら、次のアクションを決定している。このスコアが非常に参考になり、セキュリティ対策の指針として大きく貢献しているとのこと。

今後の展望

robot homeでは、CREMの週に1回定期的に確認するとともに、随時発生するアラートに対応する運用を確立、今後も継続、引き続き業界標準スコアを下回るように運用していく予定だ。今後は社内のコンプライアンス委員会にて、関係者へより詳細に自社のリスク値を共有するためにCREMのレポートも活用していきたいとのこと。「AWSをはじめとするクラウド環境において、クラウドベンダーが提供するセキュリティ機能による対策に加えて、システム全体を統合的に可視化する仕組みとして今後もTrendAI™ のCREMを活用していきたいと考えております」と大木 氏は語る。

「AWSをはじめとするクラウド環境において、クラウドベンダーが提供するセキュリティ機能による対策に加えて、システム全体を統合的に可視化する仕組みとして今後もTrendAI™ のCREMを活用していきたいと考えております」
大木 照仁 氏
株式会社robot home DXマネジメント部

サイバーセキュリティの取り組みを一歩先へ

株式会社robot homeのような組織が、TrendAI Vision One™ を活用して、どのように「リアクティブ」から「プロアクティブ」なセキュリティへと進化を加速しているのかをご紹介します。

詳細はこちらから
https://trendaisecurity.com/ja

導入効果

CREMを導入したことで、脆弱性を含めた組織全体のリスクの可視化を実現できるようになった。特にアプリケーションの脆弱性については、該当するアプリケーションがインストールされている端末の確認、パッチの適用状況を一括して確認できるようになり、リスクの把握が格段に向上した。

アプリケーションの利用承認に際しては、CREMのリスクスコアも参考にした。例えば、Slackなどのコミュニケーションツールは各種情報が集約するという特徴があり、加えて外部との連携が可能なアプリケーションのためスコアが高く評価されやすいが、リスクを受け入れる形で自社の標準ソフトウェアとして認定、運用するという工夫もおこなっている。

CREMのダッシュボードによる全体の可視化は特に評価が高く、端末単位での可視化により、該当する脆弱性を持つ端末とその利用者を把握、適切に対応依頼、状況確認により、作業負荷を大幅に減らすことに成功している。

また、導入前はJPCERTから提供される脆弱性情報などから、脆弱性の数や種類は把握できていても、それらが自社にもたらす具体的なリスクを定量的に把握することができなかったが、CREMのスコアリング機能を活用することで、具体的な対応状況の把握、効果測定にもつながっている。導入後は、月次で実施している社内のコンプライアンス委員会において、自社環境のリスク状況を共有する機会を設けている。これにより、組織全体でのセキュリティ意識の向上にも寄与している。

TrendAI™ について

TrendAI™ は、トレンドマイクロのエンタープライズ向け事業部門であり、AIセキュリティのグローバルリーダーです。AIの包括的な可視化と統合セキュリティの提供を通じて、組織に確かな信頼をもたらし、イノベーションを推進するとともに、リスクを最小化します。

現在、世界185か国において大手企業や政府機関に採用され、アイデンティティ、インフラ、データに至るまで、組織全体を横断したセキュリティを提供しています。AI Fearlessly.

https://trendaisecurity.com/ja